



# 生き甲斐と希望の持てる平和な社会を！

## 成人おめでとう

### ■世界は大きな曲がり角に

昨年の大震災と原発事故は、多くの識者をして「戦後最大の危機」と言わしめました。海を隔てた欧州でも、ギリシャに端を発した経済危機を「戦後最大の危機」と言わざるを得なくなっています。これまでの社会・経済・政治の仕組みが機能不全に陥り、生命力を失いつつあるとの認識が広がっているのです。



しかし日本の政財界を見る限り、物事を真正面から直視できない人々が、国の舵取りを引き受け続けているのが現状です。安全で安くクリートなエネルギーだと言って原発を推進し、東日本一帯を人々が健康と命の不安におびえつつ暮らさざるを得ない地に変えてしまった人々が、未だ政治と経済の実権を握り続けていることほど、異常な光景はありません。

### ■仕事、暮らし、平和が危機に

彼らは、国のおおもとのエネルギー政策で大失敗をしたにも関わらず、何の反省もないまま、「国の未来のため」と言って消費税の増税を行おうとしています。社会保障のためと称しながら、社会保障を切り縮めようとしています。国際競争力を強め、若者たちが希望を持てる成長社会をつくると言いながら、若者や女性たちに対してさらなる低賃金や失業状態を押しつけ、ワーキングプアを大量生産しようとしています。

平和をめぐる問題でも、危惧すべき動きが強まっています。昨年の11月に、改憲論議をスタートさせる目的で、衆議院の憲法審査会が開催されました。改憲と強力な軍隊の建設を党とする自民党は、4月を目的に憲法改正試案を作るとしています。震災と原発事故さえも口実にして、国民の民主的権利を縛り、衆議院の解散さえ封じることが可能な緊急事態条項を盛り込むとしています。

### ■若者の力で新しい希望の社会を

原発事故は子どもや女性たちに健康と命の不安を強めています。格差の拡大、貧困の広がりは、子ども、女性、若者たちを直撃しています。平和を軽んじる動きによって真っ先に犠牲になるのも、戦前の経験を見ても明らかのように、若者たちです。

しかし、若者には古い観念に縛られない、自由ではつらつとした発想力があります。必要だと思ったこと、正しいと考えることをためらわず試す行動力もあります。同じ世代で、同じ困難に直面しているからこそ、実は手を取り合える仲間もたくさんいるはずですよ。

若者の発言と行動で、閉塞した社会を大いに揺さぶり、変えていきましょう！

**九条の会・流山**

■連絡先  
TEL/FAX

石林紀四郎 (04-7154-7511) 三原真子 (04-7152-6559)  
山田洋子 (04-7144-3993)